安全データシート（Safety Data Sheet）

―― 混 合 ク レ ゾ ー ル ――

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称:　混合クレゾール
製品コード:　JAIA-16
供給者の会社名称:　（日本芳香族工業会会員会社）
住所:
電話番号:
緊急連絡電話番号:
ファックス番号:
メールアドレス:
推奨用途及び使用上の制限:

---

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性:	引火性液体	区分 4
	自然発火性液体	区分外
健康に対する有害性:	急性毒性(経口)	区分 3
	急性毒性(経皮)	区分 3
	皮膚腐食性・刺激性	区分 1A
	眼に対する重篤な損傷・	
	眼刺激性	区分 1
	皮膚感作性	区分 1
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	区分外
	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器毒性,	区分 1(神経系、腎臓)
	単回ばく露	区分 2(呼吸器、心臓)
	特定標的臓器毒性,	区分 2(呼吸器、神経系
	反復ばく露	腎臓、肝臓、脾臓)
環境に対する有害性:	水生環境有害性(急性)	区分 2
	水生環境有害性(長期間)	区分外

※記載の無いものは「分類対象外」または「分類できない」

GHS ラベル要素

絵表示:

注意喚起語:　危険
危険有害性情報:　可燃性液体

飲み込むと有毒
皮膚に接触すると有毒
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
神経系、腎臓の障害
呼吸器、心臓の障害のおそれ
長期または反復ばく露による呼吸器、神経系、腎臓、肝臓、脾臓の障害のおそれ
水生生物に毒性

注意書き:

【安全対策】
使用前に取扱説明書を入手し、すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
炎および高温のものから遠ざけること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
ミスト／蒸気を吸入しないこと。
環境への放出を避けること。
【応急処置】
火災の場合には、消火に粉末、二酸化炭素、泡消火器を使用すること。
飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚(または髪)に付着した場合:直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。多量の水と石鹸で洗うこと。
汚染した衣類を再使用する場合には洗濯すること。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
暴露またはばく露の懸念がある場合:医師の診断／手当を受けること。
【保管】
涼しいところ／換気の良い場所で保管すること。
施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別:　化学物質

化学名又は一般名:　クレゾール(Cresol)

別名:　クレゾール酸、オキシトルエン、メチルフェノール

成分及び含有量:

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

	含有量%(例)	CAS 番号
m-クレゾール	60 前後	108-39-4
p-クレゾール	35 前後	106-44-5
2,4-キシレノール	2 前後	105-67-9
2,5-キシレノール	1 前後	95-87-4
2,6-キシレノール	2 前後	576-26-1

化学特性:　クレゾール　$C_6H_4(CH_3)OH$　(分子量 108)

(化学式又は構造式)　キシレノール　$C_6H_3(CH_3)_2OH$　(分子量 122)

官報公示整理番号:　(ポリ(1～3)アルキル(C＝1～3)ポリ(1～3)ヒドロキシポリ(1～5)フェニル)(4)-57(化審法)

m-クレゾール　4-(10)-151(安衛法)

p-クレゾール　4-(10)-152(安衛法)

---

4. 応急措置

混合クレゾールに被災した場合は、応急処置を行い医師の手当を受ける。

吸入した場合:
- 被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させる。
- 呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣類をゆるめ呼吸気道を確保した上で人工呼吸をおこなう。
- 毛布などを使用して体の保温に努め安静に保つ。

皮膚に付着した場合:
- 汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。
- 触れた部分を水または微温湯と石鹸を使って洗い落としたのち、さらに 15 分間流水による洗浄を続行する。
- 液状のポリエチレングリコールまたはそのアルコールとの混合物が直ちに使える場合には、これを脱脂綿に浸し、よくぬぐい取った後に洗浄する。

眼に入った場合:
- 清浄な流水で最低 15 分間目を洗浄する。
- 洗眼の際、痛みのために被災者が目を閉じようとしても、指で眼瞼をよく開いて眼瞼、眼球のすみずみまで水が行きわたるように洗う。

飲み込んだ場合:
- 吐き出させないで、直ちに医療機関へ搬送して処置を受ける。
- 水で口の中をよく洗わせる。胃の中で希釈するために水、牛乳などを少量与えてもよい。
- 意識がない被災者に、口から何も与えてはならない。

予想される急性症状及び遅発性症状:
- 症状が遅れて現れることがあるため、医療機関における経過観察が必要である。

最も重要な兆候及び症状: ・応急措置の際、救助者は自分の皮膚に触れたり、
応急措置をする者の保護: 目に入らぬよう注意する。

5. 火災時の措置

消火剤: ・小火災:粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂
・大火災:散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤

使ってはならない消火剤: ・火源へ直接に棒状注水

特有の危険有害性: ・燃焼生成ガスは有害な一酸化炭素などを含有し、刺激性がある。
・加熱により容器が爆発するおそれがある。
・加熱により蒸気が空気と爆発性混合気を生成するおそれがある。
・屋内、屋外又は下水溝で爆発の危険がある。

特有の消火方法: ・初期の火災には粉末、二酸化炭素、泡などを用いる。
・霧状水によっても消火することができる。
・大規模火災は泡消火剤で空気を遮断する。
・移動可能な可燃物容器は、安全な場所に移す。

消火を行う者の保護: ・消火作業は適切な保護具(自給式呼吸器、防火服、防災面等)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置: ・風下の人を避難させる。漏洩した場所の周辺にはロープを張るなどして人の立入りを禁止する。
・作業は適切な保護具(8. ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用し、風上から作業する。

環境に対する注意事項: ・付近の着火源となるものを速やかに取除き、消火用機材を準備する。
・側溝、下水、河川に流出しないよう注意する。

封じ込め及び浄化方法及び機材: ・危険でなければ漏れを止める。
・漏洩物を掃き集めて密閉可能な容器に回収、後で廃棄処理する。
・吸収したものを集めるとき、きれいな帯電防止器具を用いる。

回収・中和: ・少量の場合、固化あるいは吸着(吸着材、土砂、ウエス等)させ密閉可能な容器に回収する。
・溶融状態で漏洩した場合、土嚢等で流れを止め冷却固化してから密閉可能な容器に回収する。この場合、河川などに少量でも排出しないように注意する。

二次災害の防止策: ・すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 (局所排気・全体排気):	・「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行う。
安全取扱注意事項:	・取扱い場所及び周辺の火気、静電気、衝撃火花などの着火源の存在を厳禁する。 ・液の漏洩及び蒸気の発散を極力防止する。 ・蒸気の発生する場所には局所排気装置などを設ける。 ・保護眼鏡、保護手袋は必ず着用する。吸入・接触のおそれがあるときは、その他の保護具を着用する。 ・取扱い場所では、火気源(生火・アーク・高温物)を使用しない。 ・直火による加熱および 70℃以上の加熱は行ってはならない。
接触回避:	・「10. 安定性及び反応性」を参照

保管

適切な技術的対策:	・消防法の規定に従った技術的対策をとる。 ・保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設けること。
安全な保管条件:	・換気のよい冷暗所に保管し、着火源、高温物等を近づけない。 ・加温状態で貯蔵する場合、過熱に注意する。 ・酸化性物質等の混触禁止物質と共存させない。
混触危険物質:	・「10. 安定性及び反応性」を参照
安全な容器包装材料:	・消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

---

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度:	5 ppm(クレゾール異性体混合物)

許容濃度

日本産業衛生学会勧告値: (2014 年度)	5 ppm (22mg/m^3)皮膚吸収性(全異性体)
ACGIH(2015 年):	TLV-TWA 20mg/m^3 皮膚吸収性(全異性体)
設備対策:	・取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。 ・取扱い場所の近くに洗眼器、シャワーを設け、その位置を表示する。

保護具

呼吸用保護具:	・作業の状況に応じて、防毒マスク(有機ガス用)、濃度が高い場合は送気マスク、空気呼吸器等の中から適したものを使用する。
手の保護具:	・耐油性(不浸透性)の保護手袋は必ず着用する。

眼の保護具:	・保護眼鏡(又は防災面)は必ず着用する。
皮膚及び身体の保護具:	・耐油性(不浸透性)の長靴、保護服、前掛け等の中から適したものを使用する。
衛生対策:	・保護具は保護具点検表により定期的に点検する。 ・取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

1～4)

物理的状態、形状、色など:	無色透明の液体	
臭い:	石炭酸臭	
臭いの閾値:	データなし	
pH:	データなし	
融点・凝固点:	11～12℃(m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)、 35～36℃(p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)	
	25～27℃(2,4-キシレノール)、 48～49℃(2,6-キシレノール)	
沸点:	202℃(m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)、 202℃(p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)	
	210℃(2,4-キシレノール)、 203℃(2,6-キシレノール)	
引火点:	86℃(m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)、 86℃(p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)	
	96℃(2,4-キシレノール)、 73℃(2,6-キシレノール)	
蒸発速度:	データなし	
燃焼性(固体,液体):	データなし	
爆発範囲:	下限 1.1% (m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)、 下限 1.1% (p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)	
蒸気圧(25℃):	20 Pa (m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)、 15 Pa (p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)	
蒸気比重(空気＝1):	3.7 (m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)、 3.7 (p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)	
	4.2 (2,4-キシレノール)、 4.2 (2,6-キシレノール)	
密度(20℃):	1.03g/cm^3 (m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)	
	1.03g/cm^3 (p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)	
	1.03g/cm^3 (14℃) (2,4-キシレノール)	
	1.13g/cm^3 (2,6-キシレノール)	
溶解度(水):	2.4g/100g (m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)	
	1.9g/100g (p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)	
	アルコール、エーテルなどの有機溶剤に可溶	
オクタノール／水分配係数:	log Pow 1.96 (m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)	
	log Pow 1.94 (p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)	
	log Pow 2.3 (2,4-キシレノール)	
	log Pow 2.36 (2,6-キシレノール)	
自然発火温度:	558℃(m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)、 559℃(p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)	
分解温度:	データなし	
粘度:	12.9mPa・s (25℃) (m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)	4)
	5.607mPa・s(45℃)(p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)	4)

10. 安定性及び反応性

化学的安定性:	・通常の取扱い条件においては安定である。
危険有害反応可能性:	・酸化性物質等と触れると反応する危険性がある。

・空気や光にばく露すると黒ずむ。
・蒸気は空気より重く、低所に滞留して爆発性混合ガスをつくりやすい。

避けるべき条件: ・日光、空気
混触危険物質: ・強酸化剤
危険有害な分解生成物: ・燃焼すると分解し、有毒で刺激性のフュームを生じる。

11. 有害性情報

1,2,5～20)

急性毒性:

皮膚、肺及び嚥下により吸収されて全身の中毒が生じ、20～30 分以内に症状が現れる。急性中毒では、頭痛、めまい、視力低下、耳なり、筋力低下、呼吸の乱れ、呼吸困難、ときには意識喪失、精神異常が生じ死亡することもある。

経口 ラット LD_{50} 242 mg/kg (m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)
経口 ラット LD_{50} 207 mg/kg (p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)
経口 ラット LD_{50} 2300 mg/kg (2,4-キシレノール)
経口 ラット LD_{50} 296 mg/kg (2,6-キシレノール)
経皮 ラット LD_{50} 1100 mg/kg (m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)
経皮 ウサギ LD_{50} 300 mg/kg (p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)
経皮 ラット LD_{50} 1040 mg/kg (2,4-キシレノール)
経皮 ラット LD_{50} 700 mg/kg (2,6-キシレノール)

9～12)

経口 ラット LD_{50} 233 mg/kg (ATEmix)
経皮 LD_{50} 573 mg/kg (ATEmix)
飲み込むと有毒(区分 3)
皮膚に接触すると有害(区分 3)

皮膚腐食性及び皮膚刺激性:

皮膚に触れたとき、激しい薬傷を生じる。
蒸気は呼吸気道に対し刺激性がある。
ウサギの皮膚刺激性試験結果、非可逆性の組織破壊がみられた。(m-ｸﾚｿﾞｰﾙ, p-ｸﾚｿﾞｰﾙ) 9)
ヒトへの健康影響として、皮膚、気道に対して腐食性を示す。(2,4-キシレノール) 1)
ウサギ、モルモットを用いた皮膚刺激性試験結果の「紅斑および潰瘍形成」がみられた。 また、ヒトへの影響では、接触した部位の皮膚や粘膜に化学火傷を起こし、腐食性を示す。(2,6-キシレノール) 11)
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷(区分 1A)

眼に対する重篤な損傷性・又は眼刺激性:

目に液滴が入ると激しい作用があり失明することもある。蒸気は目に対し刺激性がある。
ウサギの眼刺激性試験の結果、結膜、角膜、虹彩に対して強度の刺激性を示し、72 時間以内に回復せず。 13)

	ヒトの眼に対して腐食性を示す。(2,4-キシレノール) 1)
	ウサギを用いた眼刺激性試験結果、刺激性がみとめられた。(2,6-キシレノール) 14)
	重篤な眼の損傷(区分 1)
呼吸器感作性又は皮膚感作性:	繰り返し接触するとアレルギー性の皮膚炎を生じることがある。
	反復または長期の接触により、皮膚が感作されることがある。(2,4-キシレノール) 1)
	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ(区分 1)
生殖細胞変異原性:	60:40 m/p-クレゾールは、体細胞 *in vivo* 変異原性試験(マウス赤血球を用いた小核試験)で陰性である。 9)
	m-クレゾールはマウス骨髄染色体異常試験で陰性である。 1,13,15)
	総合的にクレゾール(混合体)は *in vivo* 変異原性を示さないと判断される。
発がん性:	EPA 分類では Gr C(動物実験で発がん性を証明する限られたデータがある物質、ヒト発がん性があるかもしれない物質)としている。(m-ｸﾚｿﾞｰﾙ, p-ｸﾚｿﾞｰﾙ) 18)
	EU、NTP、IARC、ACGIH、日本産業衛生学会、OSHA では、現在発がん性について評価されていない。
生殖毒性:	ラットの二世代繁殖試験において、高用量(450 mg/kg/day)で授乳期の生後児に生存率の低下がみられている報告がある。この所見を出生前の影響か、出生後の影響か、また、母体への影響によるかを判断するのは困難であるが、出生前の影響を除外することは出来ない。(m-ｸﾚｿﾞｰﾙ) 13,16,17)
	複数の生殖毒性試験において、生殖機能、生殖能力または発生に対する悪影響の存在に関して否定的な報告がなされているが、ラットの催奇形性試験において、胎児に僅かな骨格の変異がみられていることには注意が必要である。(p-ｸﾚｿﾞｰﾙ) 16,17,19)
	生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い(区分 2)
特定標的臓器毒性, 単回ばく露:	実験動物については、自発運動抑制、振戦、流涎、虚脱、鼻腔への刺激性、筋肉の興奮、痙攣、血尿がみられた。(m-ｸﾚｿﾞｰﾙ) 13)
	実験動物については、自発運動抑制、振戦、流涙、呼吸困難、チアノーゼ、出血性の鼻カタル、痙攣、虚脱、鼻腔への刺激性、神経性による筋肉の興奮、痙攣、血尿がみられた。(p-ｸﾚｿﾞｰﾙ) 13)
	エーロゾルを吸入すると、肺水腫を起こすことがある。(2,4-キシレノール) 1)

	ヒトについて、頭痛、眩暈、吐気、嘔吐、筋肉のれん縮、中枢神経抑制、精神錯乱、意識喪失、吐気、嘔吐、代謝性アシドーシス、乏尿、低血圧、心臓及び腎臓障害が報告されている。(2,6-キシレノール) 11)
	神経系、腎臓の障害(区分 1)
	呼吸器、心臓の障害のおそれ(区分 2)
特定標的臓器毒性, 反復ばく露:	実験動物については、流涎、腹部尿汚染、自発運動抑制、頻呼吸、努力呼吸、間代性痙攣、過反応性がみられた。(m-ｸﾚｿﾞｰﾙ) 13)
	実験動物については、鼻腔の呼吸上皮の過形成、扁平上皮化生、流涎、振戦、腹部尿汚染、自発運動抑制、頻呼吸、努力呼吸、間代性痙攣、過反応性がみられた。(p-ｸﾚｿﾞｰﾙ) 13,16)
	実験動物については、最終剖検時、中用量投与の雌で BUN 濃度が有意に上昇した。雌雄に嗜眠、全身衰弱、運動失調がみられた。(2,4-キシレノール) 6)
	実験動物については、肝臓、腎臓及び脾臓の組織で変性、肝臓の解毒及び排泄機能の障害を含む肝機能低下がみられた。(2,6-キシレノール) 20)
	長期または反復ばく露による呼吸器、神経系、腎臓、肝臓、脾臓の障害のおそれ(区分 2)
吸引性呼吸器有害性:	情報なし

12. 環境影響情報 9,11,13,16,20～24)

生態毒性

魚類:	ｶﾜﾏｽ	LC_{50} (96h) 7.6 mg/L	(m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)
	ﾆｼﾞﾏｽ	LC_{50} (96h) 8.6 mg/L	(m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)
	ｾﾞﾌﾞﾗﾌｨｯｼｭ	LC_{50} (96h) 15.9 mg/L	(m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)
	ﾌｧｯﾄﾍｯﾄﾞﾐﾉｰ	LC_{50} (96h) 56 mg/L	(m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)
	ﾋﾒﾀﾞｶ	LC_{50} (96h) 14 mg/L	(p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)
	ﾆｼﾞﾏｽ	LC_{50} (96h) 7.5 mg/L	(p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)
	ﾌｧｯﾄﾍｯﾄﾞﾐﾉｰ	LC_{50} (96h) 19 mg/L	(p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)
	ﾋﾒﾀﾞｶ	LC_{50} (96h) 16 mg/L	(2,4-キシレノール)
	ﾌｧｯﾄﾍｯﾄﾞﾐﾉｰ	LC_{50} (48h) 6.7 mg/L	(2,6-キシレノール) 9,16,20～22)
甲殻類:	ｵｵﾐｼﾞﾝｺ	EC_{50} (48h) 18.8 mg/L	(m-ｸﾚｿﾞｰﾙ)
	ｵｵﾐｼﾞﾝｺ	EC_{50} (48h) 7.0 mg/L	(p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)
	ｵｵﾐｼﾞﾝｺ	EC_{50} (48h) 1.4 mg/L	(p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)
	ｵｵﾐｼﾞﾝｺ	EC_{50} (48h) 4.2 mg/L	(2,4-キシレノール)
	ｵｵﾐｼﾞﾝｺ	EC_{50} (48h) 11.2 mg/L	(2,6-キシレノール) 9,16,20～22)
藻類:	ｾﾚﾅｽﾄﾗﾑ	E_bC_{50} (72h) 23 mg/L	(p-ｸﾚｿﾞｰﾙ)

	セレナストラム	E_rC_{50} (72h) 9.7 mg/L (2,4-キシレノール)
	セレナストラム	E_bC_{50} (72h) 6.7 mg/L (2,4-キシレノール) 21,22)
残留性・分解性:	急速分解性がある(OECD テストガイドライン 301D による 28 日間の分解度:65-90%)。(m-クレゾール)	13)
	急速分解性がある(OECD テストガイドライン 301C による 40 日間の分解度:80-95%)。(p-クレゾール)	13)
	急速分解性がある(BOD による分解度:91%)。(2,4-キシレノール)	23)
	急速分解性がある(セントローレンス川の河川水を用いた実験では、本物質は易分解との報告がある)。(2,6-キシレノール)	11)
生体蓄積性:	生物蓄積性が低い(BCF=20)。(m-クレゾール)	13)
	生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=1.94)。(p-クレゾール)	
	生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=2.3)。(2,4-キシレノール)	24)
	生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=2.36)。(2,6-キシレノール)	24)
土壌中の移動性:	情報なし	
オゾン層への有害性	情報なし	

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物:
- 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。
- おがくず、ウエス、珪藻土、吸着マット等に吸着させ、免許を持った産業廃棄物処理業者に内容物を明示して処理を委託する。
- 少量でも下水、河川などに排出しないように注意する。

汚染容器及び包装:
- 汚染容器を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

国際規則

海上規制情報:	IMO の規定に従う。
国連番号:	2022
Proper Shipping Name:	CRESYLIC ACID
国連分類:	クラス 6.1(毒物)
副次危険性:	8
容器等級:	Ⅱ
海洋汚染物質:	非該当
航空規制情報:	ICAO/IATA の規定に従う。

国内規制

陸上規制情報:	消防法、毒劇法の規定に従う。
容器:	危険物の規制に関する規則別表第 3 の 2 毒物及び劇物の運搬容器に関する基準その 3
容器表示:	第 3 石油類、危険等級Ⅲ、数量、火気厳禁 医薬用外劇物、名称、製造者の名称及び住所
積載方法:	運搬時の容器積み重ね高さは 4m 以下
混載禁止:	第 1 類および第 6 類の危険物、高圧ガス
海上規制情報:	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報:	航空法の規定に従う。
特別の安全対策:	・車両等によって運搬する場合は、荷送人は運送人へ運送注意書(イエローカード)を携帯させる。 ・容器の破損、漏れがないことを確かめ、衝撃、転倒、落下、破損のないように積み込み荷崩れ防止を確実に行う。 ・タンク車(ローリー)等への充填、積み降し時は、平地に停止させ、車止めをし、接地し、タンク車の許容圧以下の圧縮ガスまたはポンプを用いて行う。 ・ローリー、運搬船には所定の標識板、消火設備、災害防止用応急資材を備える。 ・ホースの脱着時はホース内の残留物の処理を完全に行う。 ・ローリー、運搬船には所定の標識板、消火設備、災害防止用応急資材を備える。
応急措置指針番号:	153

15. 適用法令

消防法:	第 4 類引火性液体、第 3 石油類(非水溶性液体)(指定数量 2,000 L)
労働安全衛生法:	第 2 種有機溶剤等(有機溶剤中毒予防規則) 腐食性液体(労働安全衛生規則第 326 条) 名称等を表示すべき有害物(法第 57 条、施行令第 18 条)No.7 の 3 クレゾール 名称等を通知すべき有害物(法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別表第 9)No.141 クレゾール
化審法:	優先評価化学物質(法第2条第5項)No.156 クレゾール
化学物質排出把握管理促進法(化管法):	第一種指定化学物質 2,4-キシレノール 第一種指定化学物質 2,6-キシレノール 第一種指定化学物質クレゾール
毒物劇物取締法:	劇物(クレゾールを 5%を超えて含有する製剤)
船舶安全法:	毒物類・毒物(危規則別表第 1)

港則法:	危険物・毒物類
海洋汚染防止法:	ばら積み運送における有害液体物質 (Y 類物質:クレゾール)
道路法:	施行令第 19 条の 13　　車両の通行の制限
航空法:	毒物類・毒物(施行規則第 194 条危険物告示別表第 1)
水質汚濁防止法:	生活環境項目

16. その他の情報

参考文献:

1) 国立医薬品食品衛生研究所 ICSC データ http://www.nihs.go.jp/ICSC/
2) 国立環境研究所 WebKis-Plus データ
http://w-chemdb.nies.go.jp/index.htm
3) K.Verschueren : Handbook of Environmental Data on Organic Chemicals
(Second edition 1983)
4) Lide (84th, 2003)
5) The Royal Society of Chemistry: Chemical Safety Data Sheets
Vol.4:45.Cresols
6) IRIS (1990)
7) ECDIN (CD-ROM)
8) 製品評価技術基盤機構:GHS 分類データベース
http://www.safe.nite.go.jp/ghs/list.html
9) EHC 168 (1995)
10) HSDB (2005)
11) CERI ハザードデータ集 2001-48 (2002)
12) RTECS (2006)
13) SIDS (2005)
14) IUCLID (2002)
15) NTP TOX9 (1992)
16) CERI ハザードデータ集 97-9 (1998)
17) ATSDR (1992)
18) EPA (1991)
19) 環境省リスク評価第1巻 (2002)
20) 環境省リスク評価第3巻 (2004)
21) 環境省生態影響試験 (1997)
22) 環境省生態影響試験 (2001)
23) 経済産業省既存化学物質安全性点検データ (2002)
24) PHYSPROP Database (2005)

改定履歴

H16.7

様式の統一

H19.1

JIS Z 7250:2005 様式への改正

H21.8

化管法改定に伴う見直し。

H22.7

化審法改定に伴う見直しと化管法に関する表記の変更。

JIS Z 7252:2009 様式への改正(GHS 分類区分、危険有害性情報の修正)

H23.6

化審法改定に伴う見直し

H25.1

JIS Z 7253:2012 制定に伴う見直し

H26.1

化審法改定(優先評価物質;クレゾール追加)に伴う見直し

H27.4

JIS Z 7252:2014 改訂に伴う見直しと ACGIH 許容濃度の変更

この SDS 標準モデルの作成者は、(一社)日本芳香族工業会「SDS 小委員会」です。
記載した情報は、会員会社の知見並びに参考文献等から抽出しています。
この SDS 標準モデルの利用者は、自己の責任において情報の採否をお決め下さい。